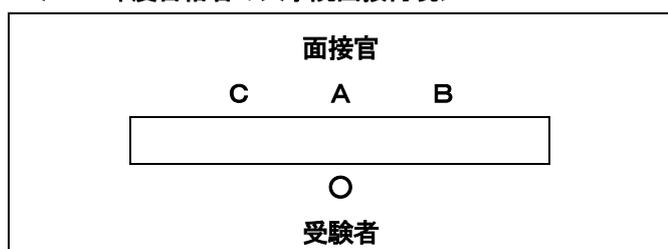


※人事院面接復元データ入力用 (●●を入力してください。)

【基本情報】

・氏名 : 国総太郎
・フリガナ : コクソウタロウ
・会員番号 : 0123456789
・内定先 : 外務省
・郵便番号 : 101-8739
・住所 : 東京都千代田区神田三崎町 3-2-18
・電話番号 : 0120-555-962

<2019 年度合格者の人事院面接再現>



時間 : 約 20 分 (受験者 : 面接官 1 : 3)

場所 : 経済産業省別館

受験者 : 女性 (外務省 : 内定)

評価 : B

概要 (600 字程度) (50 文字×12 行)

今年は5月27日に二次試験がありましたが、5月29日から法律区分受験者の面接が始まりました。例年に比べると時期が随分早く、法律区分、経済区分の順で面接がなされた模様です。私は法律区分受験者の中では受験番号が後半でしたので、6月1日の14時10分集合の組でした。当日は、前の組の面接の時間が押していたようで、最初は机も椅子もほとんどない広い部屋に通され、その後、待合室に案内されました。14時10分の回の受験者は35名ほどおり、受験番号順に5、6人ずつ7組に分けられました。この組ごとに7つの面接室が割り振られます。20分程度、面接の進め方や注意事項、今後の日程などの説明を受けました。特に、面接中に大学名を特定されるような発言はしないようにとの注意が繰り返され、この時に面接カードを提出しました。

私は第5室の3番目でしたが、前の組の面接が長引いており待ち時間が長く、私の面接が開始したのは15:50でした。待合室から面接室までは、渡された地図の案内にしたがって一人で向かいます。部屋の前の椅子に地図を置き、ノックをして入室します。

入室すると、人事院の女性職員の方が中央に座っていて、両隣に男性の他省庁人事課の方が座っていました。広い部屋で、受験者と面接官の座席はとても離れていました。Cの方は説明会でお会いしたことのある方でしたので、気が引き締められました。

(次ページへ続く)

私：失礼します。受験番号〇〇，〇〇と申します。宜しくお願い致します。(言い間違える)

A：受験番号〇〇ですね。どうぞおかけください。(笑いかけながら) 今からいくつか質問しますが、緊張せずにお答えください。まず、このゼミのテーマを選んだきっかけを教えてください。

私：はい。アジア太平洋の地域は最近報道でも取り上げられてもいますように、今後大きな舞台になると思っていて、研究テーマにしました。そして、近年、アジア太平洋地域において、経済的な連携は進展していますが、安全保障分野につきましては、まだ途上段階にあり将来的な可能性がありますので、自由に議論し研究したいと思い、テーマにしました。

A：機能的協力とありますが、具体的に説明してください。

私：はい。安全保障と言いましても幅広く、私は軍事力にしぼらず、エネルギー資源供給、海賊対策、テロ対策など新たな脅威についても連携の可能性を模索しました。軍事力につきましては、中国が脅威だという報道もありますように、連携が難しい部分もありますが、エネルギーやテロ対策については連携の道があるのではないかと思います。分野ごとに連携の可能性を吟味して、できるところから協力していくことが大切だと思います。

A：面接カードには、知識の集積に止まることなく、とありますが、あなたは何をしたのですか。

私：はい。ゼミの研究となりますと、知識の取得で終わってしまいがちですが、将来的に国家公務員になれば実際に政策を立案する立場になることを想定しまして、具体的な政策まで考えて発表しました。

A：あなたの工夫したことはありますか。

私：はい。私のゼミには中国や韓国の留学生がおりまして、議論していて対立することもありました。私は、ゼミ中はお互い熱くなりすぎて議論が収拾しなくなっていると思い、ゼミの後に食堂やカフェに自発的に誘い、冷静にじっくりと話し合える機会を設けました。すると、共通した考えを見つけ出すことができ、最終的に具体的な施策について発表できたのだと思っています。

A：あなたが国家公務員を志望したきっかけは何ですか。

私：はい。私は、高校2年の時、地元の親善大使として渡米したことがあります。その時、高校生という身分ながら、地元を代表して、アメリカの学生や役所の方と話す機会を得て、責任感というものを強く感じました。そして、将来的には地元という小さな町という枠を超えて国単位で仕事をしてみたいと思ったのが大きなきっかけです。

A：地元という枠から国という枠に考えが広がったのはなぜですか。

私：はい。地元の代表ではありますが、相手の学生は私を日本の学生だと思って接しておりますし、私も相手の学生を町の学生と言うわけではなく、アメリカの学生と思って接していました。日本とアメリカという国と国の関係を強く感じた経験だったので、国の代表として将来的には働きたいと思いました。

A：私からは以上です。

B：所属するバレーボールサークルでは、初心者みみのチームだったということですが、〇〇さんも初心者ですか。

私：はい、そうです。

B：サークルの規模はどれくらいですか。

私：はい。私のサークルは経験者、初心者含め参加でき、経験者チームと初心者チームが学年ごとにつくられます。男女合わせて50名ほどいます。

B：なぜバレーボールを始めようと思ったのですか。

私：はい。兄が中高とバレー部に所属しておりまして、小さいころからバレーの試合観戦に出かけておりましたので関心はありました。私は中高と吹奏楽部に所属していたのですが、大学に入って新しいことに挑戦してみたいと思い、バレーボールを始めました。

B：バレーを見るのと、実際にやってみるのとでは違いはありましたか。

私：はい。バレーボールの試合を見るのはすごく楽しそうというのに尽きたのですが、実際にキャプテンとしてやってみると、チームをいかにうまく統率するのか、いかにチームの意識を高めていくのかということを考えなければならないので、責任感を伴うものだと思います。

B：どうしてあなたがキャプテンに選ばれたのだと思いますか。

私：はい。私は、キャプテンに着任する前から練習に積極的に参加していましたし、一つは上達が早かったことがあると思います。二つ目は、メンバーとの意思疎通を常日頃からやっていたので、私であればチームを調整できる、チームを任せられると思ってくれたのだと思います。

B：苦労もあったと思いますがどうやって克服しましたか。

私：はい。練習にしばらく参加しない子は、ますます練習に行けなくなるという状況でしたので、練習に参加しやすい環境作りに努めました。練習前から私が体育館に行くと、練習に来てくれた子には自分から声をかけパスを誘うなどし、練習外においても夕飯やカフェに誘うなどして本音を言い合えるように信頼関係を構築していきました。

B：結果、どうなりましたか。

私：はい。私のチームは10人いるのですが、最初は2、3人しか参加していませんでした。しかしながら、努力を続けることでチーム練習のできる6人が集まるようになり、全員が揃うことも日に日に多くなりました。

B：あなたがサークルの経験を活かして得たものはなんですか。

私：はい。サークル経験で自分一人ではチームがうまく回らないことを痛感しました。相手の立場に立ってその人の気持ちを考えることができるようになりまし、メンバーの意見を聞いてチームの方針を決めるという調整力を得ることができました。

B：私からは以上です。

C：あなたはこの面接カードに書いていること以外で力を入れたことはありますか。

私：はい。私は、海外ボランティアをやっているNPOの活動にも力を入れてきました。

C：あなたは何のために参加したのですか。

私：はい。ボランティアとは何なのかと疑問を持っていて、実際に現場に飛び込んで体感してみようと思い参加しました。

C：その活動の費用などはどうなっているのですか。

私：はい。現地集合なので、旅費や活動費は全て各自の負担になります。

C：活動については全て自分でするのですか。

私：はい。私がマレーシアの先住民の村に行ったときには、道路や池を作ったのですが、セメントを作る場所から全て自分でやりました。

C：何か苦労はありましたか。

私：はい。現地の方は英語も喋りませんので、言語の壁がありました。しかしながら、現地語を徹夜で覚え込んだり、ボディランゲージを使ったりして意思疎通をはかり、現地の住民の方のニーズを取り入れたものが出来上がりました。

C：あなたはさまざまな活動で苦労なさっていますが、このような活動にも参加しているということは何かやりがいなどがあるということですか。

私：はい。確かに、ボランティア活動についても言語の壁といった障害はありましたが、それを乗り越えて、現地の方と二人三脚で作った道路や池ができた時の達成感や現地の方の心からの感謝の気持ちは何物にも代えがたいものだと思います。

C：あなたはいろんな活動に参加していますが、スケジュールの管理などで工夫していることはありますか。

私：はい。スケジュール帳できちんと予定を管理しています。万一、大会や用事が重なった際にも、それは事前に分かることなので、チームであれば副キャプテンを任命するなどして仮に私が抜けても問題が生じないように事前の対策を万全にしています。

A：面接は以上です。

私：ありがとうございました。

面接の感想 (300字程度)

(50文字×6行)

緊張のあまり、受験番号を言い間違えるという初歩的なミスをしてしまい、マイナスからのスタートでした。しかしながら、人事院の方のフォローのおかげで緊張がほぐれ、その後は自分らしく話せたのではないかと思います。突飛な質問もほとんどなく、私の人柄、問題対処能力、強みを引き出してくれる面接だと感じました。面接カードにないことも質問されましたが、落ち着いて臨めたのは、Wセミナーの模擬面接を活用するだけでなく、友人同士で自主的に集まり面接カードの添削をし合い、面接練習を何回もした賜物だと思います。

ご協力ありがとうございました。